

環境研究総合推進費 令和7年度中間評価個票

研究課題番号	3-2403
研究課題名	廃棄物の処理・処分・再資源化の段階における PFAS の包括的な評価・管理のためのモニタリング／モデリング手法の開発と応用
研究実施期間	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度
研究代表機関名	国立環境研究所
研究代表者名	松神秀徳

1. 評価結果

評価ランク：S

2. 委員の指摘及び提言概要

廃棄物由来の PFAS の存在状況と環境排出量および環境中濃度に関する知見の収集・評価は計画通りに進捗しており、実際の廃棄物処分場を用いた貴重なモニタリングデータが多数収集されている。廃棄物に含まれる PFAS 濃度のインベントリは重要であり、将来の環境政策に大きく貢献できると考えられる。また、PFAS の発生源と移動・収集の解析から有効な削減対策技術の導入箇所と削減量への知見が積み上げられており、排出削減効果の検討も進んでいる。さらに、RPF 製造施設やメタン発酵におけるフッ素系撥水剤からの PFAS の放出量や PFAS の挙動についても検討され、モデル化への道筋が明確に示されている。今後は、環境政策の策定にむけて成果を学術論文として公表していただきたい。最終的には廃棄物で整理された PFAS データベース化にも期待する。